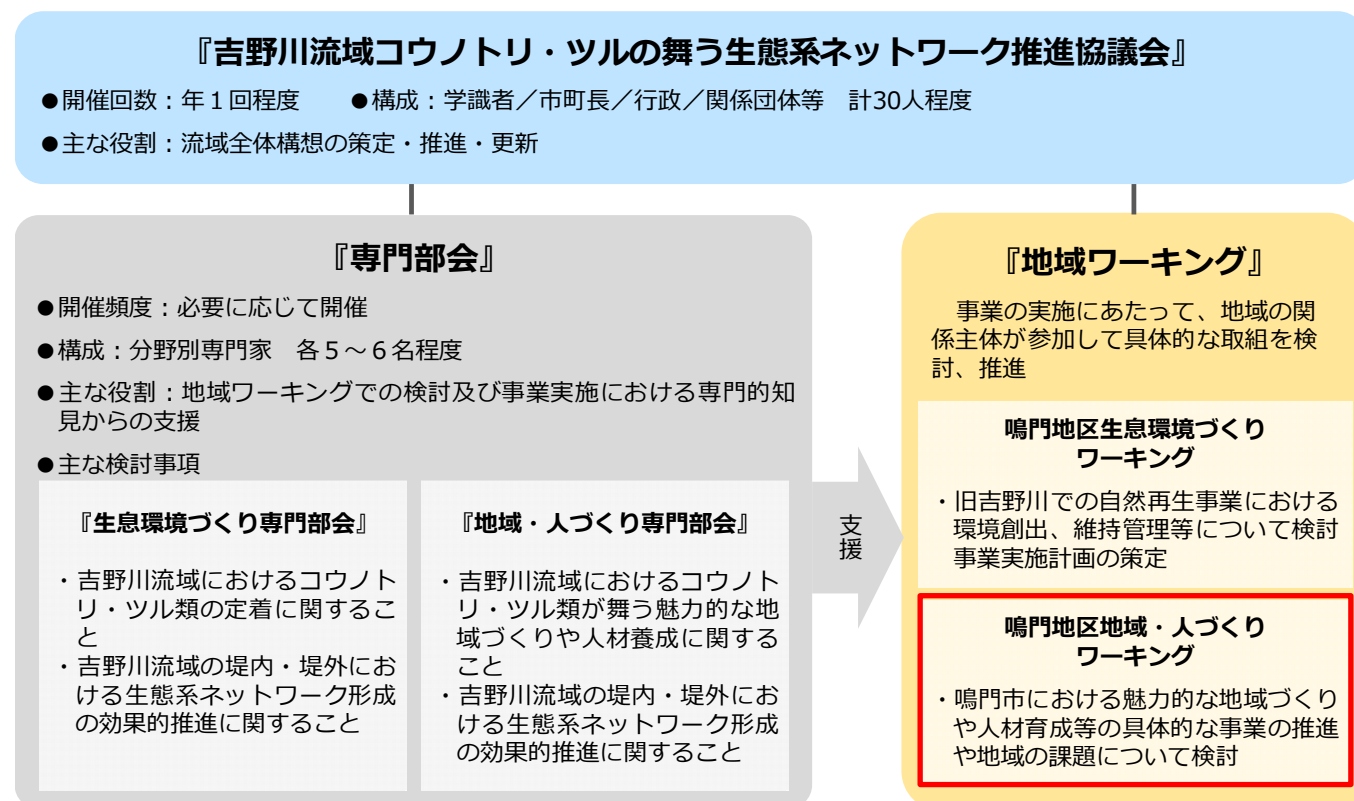


鳴門地区地域・人づくりワーキングの報告

1. 鳴門地区地域・人づくりワーキングについて

(1) 位置づけ

「鳴門地区地域・人づくりワーキング」は、「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」の下に設置される「地域ワーキング」の一つです。「鳴門地区地域・人づくりワーキング」は、2019年9月30日に設置され、コウノトリの繁殖により注目を集める鳴門市における、魅力的な地域づくりや人材育成等の具体的な事業の推進や地域の課題について検討を進めています。

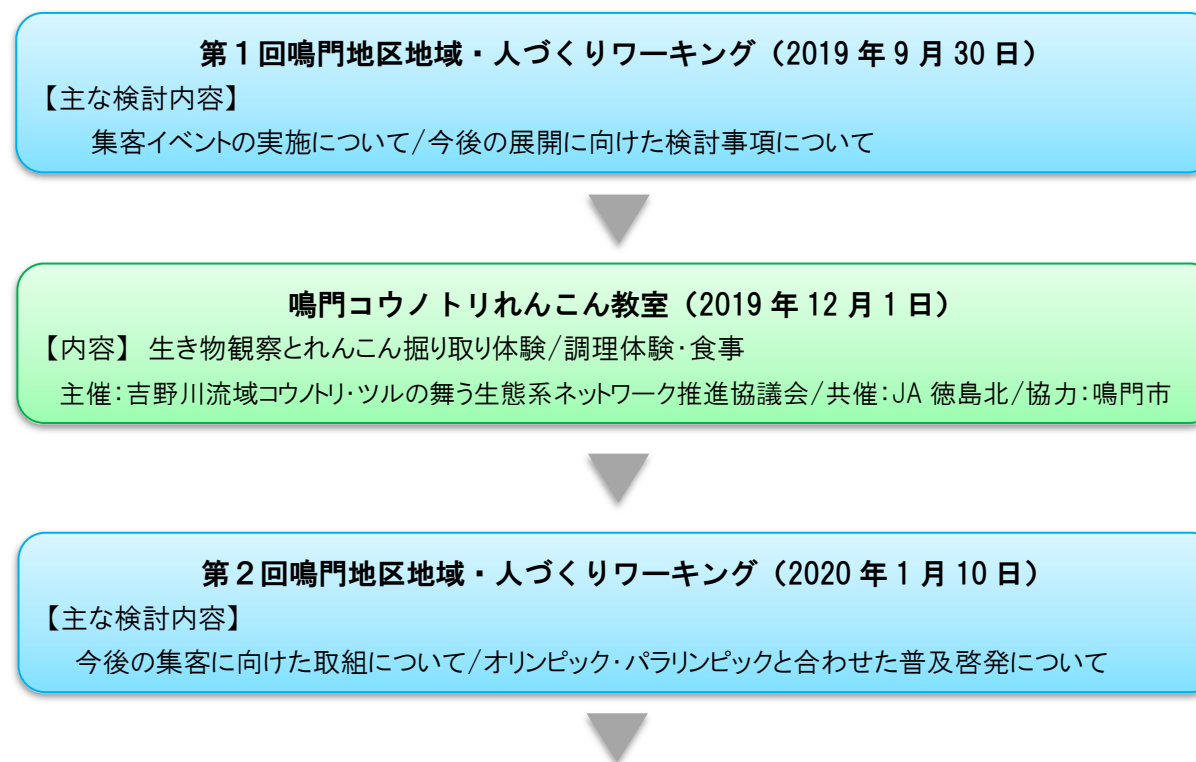


鳴門地区地域・人づくりワーキングの位置づけと役割

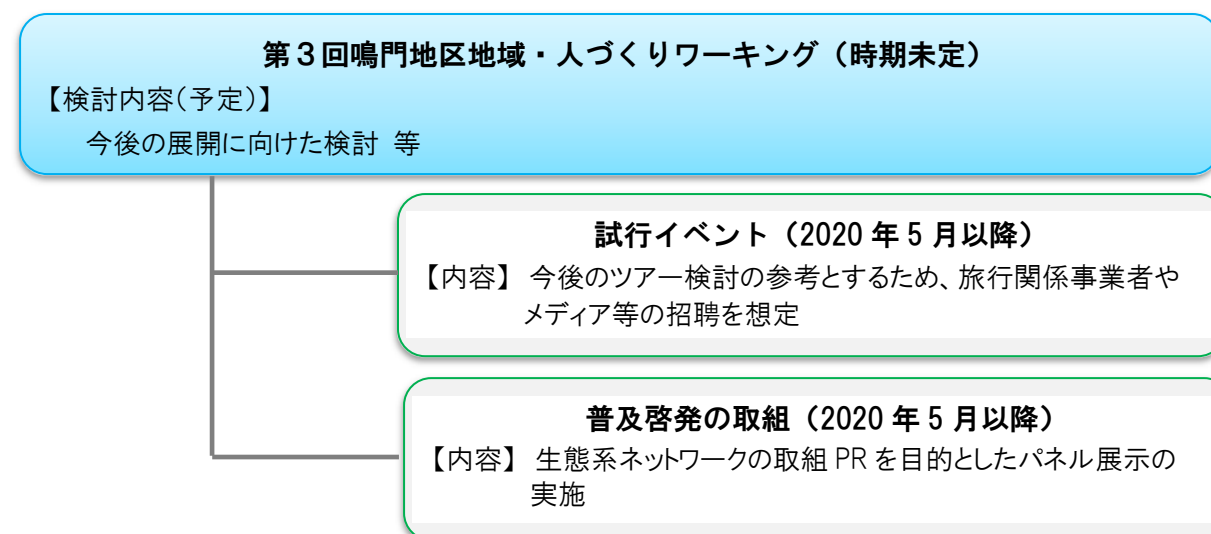
(2) 検討の経過・予定

今年度に第1回のワーキングを開催し、集客イベントの実施等について検討を行いました。ワーキングでの意見を反映して、2019年12月1日にモニターツアー「鳴門コウノトリれんこん教室」を行いました。第2回のワーキングでは、モニターツアーの結果報告、今後の集客に向けた取組等について検討を行いました。来年度以降もワーキングを適宜開催し、検討を行う予定です。

〈2019年度〉



〈2020年度以降〉



2.鳴門地区地域・人づくりワーキングの実施報告（2019年度）

（1）第1回鳴門地区地域・人づくりワーキング

1）概要

■日時 2019年9月30日（月）9：30～11：30

■場所 徳島河川国道事務所2階第一会議室

■議事内容

- （1）鳴門地区地域・人づくりワーキングの設置について
- （2）集客イベントの実施について
- （3）今後の展開に向けた検討事項について



■参加者（敬称略）

河口洋一	（徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授）
柴折史昭	（コウノトリ定着推進連絡協議会）
田村耕一	（一般社団法人イーストとくしま観光推進機構 協議会長） ◆座長
加藤泰	（一般社団法人イーストとくしま観光推進機構 事務局次長）
渡辺晃	（一般社団法人ツーリズム徳島 事務局長）
藤川浩	（徳島北農業協同組合 経済部部长）
野田勇人	（特定非営利活動法人れんこん研究会 理事長）
塩崎桂子	（アオアヲナルトリゾート アシスタントセールスマネージャー）
天野裕己	（一般社団法人鳴門市うずしお観光協会 局長補佐）
斎藤忠恒	（大麻町商工会 会長）
富山剛	（徳島県県民環境部環境首都課 課長補佐）
玉岡あき子	（徳島県商工労働観光部観光政策課 課長補佐）
佐竹孝文	（鳴門市経済建設部農林水産課 課長）
小椋勝	（鳴門市経済建設部観光振興課 課長）

2）主な意見

■集客イベントの実施について

- ・モニターツアーを実施し、今後のターゲット、販売方法、料金設定を考える必要がある。
- ・多様な意見を収集するため、募集はなるべく多い人数で、対象を限定しない方が良い。
- ・協議会やワーキングは様々な構成員からなるので、各ホームページやSNS等を活用したり、新しく出来たワーキングでツアーを行うことを記事にして効率的に広報すると良い。
- ・集客のためには、「ここでしか、今しか」という魅力を伝えることが重要。

■今後の展開に向けた検討事項について

- ・「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」、「大阪万博」と観光誘客の絶好のチャンス。コウノトリが魅力となり、新しい観光・誘客につながるコンテンツが作れると良い。
- ・「コウノトリを見る」だけでも整備をすれば、案内人をつけた2～3時間の見学で十分商品になる。その後の食事や土産を買ってもらい観光消費額をあげていく工夫が大切。
- ・ツアーで人を呼ぶにはバスが止められる駐車場と綺麗なトイレが鍵。そうしたことを念頭に検討を進めた方が良い。
- ・洗練された気配りのできるコーディネーターやガイド等が必須。また見せ方も重要。
- ・コウノトリ以外の野鳥、水生生物等も見られるし、大谷焼等の伝統産業、日本酒等の蔵、他の観光地等もあるので、それらを絡めた構成を考えると良い。
- ・「幸せ」、「自然」、「共生」等のシンボルであるコウノトリに選ばれたという価値をわかりやすく示す工夫が重要。
- ・コウノトリが地域に受け入れられるような社会、それが持続する社会を目指していければ望ましい。他の地域がうらやむような成果を出していけたら良い。

(2) 第2回鳴門地区地域・人づくりワーキング

1) 概要

■日時 2020年1月10日(金) 10:00~12:00

■場所 徳島河川国道事務所2階第一会議室

■議事内容

- (1) 「鳴門コウノトリれんこん教室」実施結果報告
- (2) 集客イベントの発展に向けて
- (3) オリンピック・パラリンピックと合わせた普及啓発について
- (4) 今後の展開について



■参加者(敬称略)

柴折史昭	(コウノトリ定着推進連絡協議会)
田村耕一	(一般社団法人イーストとくしま観光推進機構 協議会長) ◆座長
加藤泰	(一般社団法人イーストとくしま観光推進機構 事務局次長)
渡辺晃	(一般社団法人ツーリズム徳島 事務局長)
藤川浩	(徳島北農業協同組合 経済部部长)
野田勇人	(特定非営利活動法人れんこん研究会 理事長)
塩崎桂子	(アオアヲナルトリゾート アシスタントセールスマネージャー)
天野裕己	(一般社団法人鳴門市うずしお観光協会 局長補佐)
島本康治	(大麻町商工会) : 代理出席
富山剛	(徳島県民環境部環境首都課 課長補佐)
玉岡あき子	(徳島県商工労働観光部観光政策課 課長補佐)
佐竹孝文	(鳴門市経済建設部農林水産課 課長)
小椋勝	(鳴門市経済建設部観光振興課 課長)

2) 主な意見

■「鳴門コウノトリれんこん教室」について

- ・教育的な観点の内容が前面に出ていたため、親子での参加が多かったとの印象を受けた。
- ・専門的な話を聞いた上で、現場に出て体験するという流れが非常に良かった。体験型の商品は、ガイドの魅力が大事であると感じた。
- ・当日はかなり慌ただしい中で、時間の制限もあり凝縮された内容であった。今後実施する際には、内容と時間のバランスを検討した方が良い。
- ・衛生面や使用できる施設の制約もあるため、宿泊を前提とし、れんこんの掘り取り体験後に、宿泊先で調理して食べる方法等が考えられる。
- ・今後は、探求型の教育旅行や研修旅行等の素材とすることができるのではないか。但し、課題として、受け入れ人数、料金設定、バスの乗り入れ、着替えの場所やトイレの確保、長靴等の道具の準備があげられる。

■集客イベントの発展について

- ・商品化するにあたっては、知ってもらうことが重要であり、旅行関係の事業者等を招くことは優先度高く取り組むと良い。
- ・地域の受け入れ体制として周辺事業者が何を求めているかを把握していくことも必要である。
- ・ガイドの層を厚くしていく必要がある。
- ・鳴門周辺でも自転車を使って近いエリアのスポットを回るツアーが盛んになりつつあり、自転車を利用してコウノトリも見るといったプランも考えていけたら良い。

■オリンピック・パラリンピックと合わせた普及啓発について

- ・ヨーロッパコウノトリ(シュバシコウ)はドイツの国鳥で、鳴門の市の鳥がコウノトリであることはドイツと鳴門の縁をアピールできる良い素材である。
- ・徳島の人はこの事実をもっと知った方が良く、メディア等に取り上げていくよう働きかけた方が良い。

■今後の展開について

- ・2021年の秋に、JRのディスティネーションキャンペーンがあるので、駅を絡めて何かを仕掛けていくことも検討すると良い。
- ・農作物販売の拠点やコウノトリに関する情報の拠点として、国道11号沿いに整備予定の道の駅を活用していくことが考えられる。
- ・取組の継続には地域の協力が不可欠なため、コウノトリが飛来してから5年が経過し、地域の方々が今どのように感じているか、意見を聞いて取り入れていく必要がある。